

隠れた魅力

本町の隠れた名所・名物・歴史に
スポットを当てました
あなたはこれらを知っていますか？

「ホタルが出た」という情報提供を受け、現地取材した6月下旬。竹やぶから小川のほとりまで、数十匹のホタルがあわい光を放っていた。草むらでは1匹のホタルが、仲間を待つかのように明滅を繰り返していた。

【1】 時を経て、灯り始めた ホタルの光



▶暗闇に浮かぶ光の軌跡。てんぐ邑周辺の小川や竹やぶに最も多く現れ、訪れた人を楽しませた。



◀日頃からてんぐ邑の管理をする中村衛さん。「ヤマメが養殖できるくらいきれいな水なんだから、きっとホタルも育ってくれると思った」と話した。

7年ごしの努力が実を結ぶ ホタルを通して伝えたい「自然」の貴さ

「昔は捕まえるほどたくさんホタルがいて、家の中にまで入ってきちゃうくらいだったんだよ。今はめっきり見なくなっちゃったけどねえ…。こーうやってたくさん飛んでいるのを見ると、昔を思い出すよーうで懐かしいね…。」
6月21日の夜、藤川の「やまめの里・てんぐ邑」を訪れたお母さんは、ホタルが飛び交う様子を見つめながら、小さな声でつぶやいた。

諦めずに何度も挑戦した

藤川と徳山の境にある万世橋を藤川に向かって渡り、突き当たりを左に折れて旧道を進んだその先に「やまめの里・てんぐ邑」はある。地域住民7人によるまちづくり有志の会が、11年ほど前につくった憩いの場所だ。

沢から水を引いてヤマメを養殖したり、炭焼き小屋で炭を焼いたり、小川のほとりでクレソンを作ったりと、独自の活動に取り組んでいる。

ある日、ヤマメの養殖場から流れ出る小川の水を見て、グループの一員である中村衛さんは思い付いた。

「ヤマメを養殖できるくらいきれいな水なんだから、ホタルも育つんじゃないか…。」

最初の挑戦は今から7年ほど前になる。ホタルの餌となるカワニナを別の場所採取して、この小川に放流した。



やまめの里・てんぐ邑…住民有志7人がつくった憩いの場所。手前の小川がホタルの発生地。向こうに見えるのが炭焼き小屋と集会施設。その奥にヤマメの養殖場がある。

「最初は、カワニナが定着しなかった。でも次の年、（カワニナが）全くいなくなってしまうから、原因は今も分からない。だめだったのかと諦めかけていたんです。」

するとさらに次の年、衛さんの思いが通じたのか、びつくりするほどカワニナが増えたといい。衛さんはすぐに当時の徳山区長・山下忠之さんに連絡を取った。

「1ヶ月くらいのホタルの幼虫約100匹を譲り受けました。徳山では『ときどきの池』周辺で、熱心にホタルの飼育をしていましたから、ちよくちよく情報交換していたんですね。」

ホタルが育つ確証はありませんでした。とにかくやってみようと小川に放しました。

残念ながら、この時の幼虫は定着しなかったそう。その年も次の年も、ホタルは現れなかったのだ。幼虫が小さ

かったことや気象条件なども影響したのかもしれない。「とても残念に思っていたんですが、それだけでは終わらなかったんですね。山下さんから再び連絡があったんです。それが3年前。『あまった幼虫があるけど欲しいか』と言ってくれたんです。そこで譲り受けた幼虫は、前回より一回り大きなものでした。それを見て、これならいけるかもしれない、今度こそは…と期待を込めて、幼虫を小川に放しました。」

次ページへ

※カワニナ…カワニナ科に分類される巻き貝の一種。淡水域に棲み細長い形状。ホタル幼虫の餌として知られる。

